



山形から「春」を追う 母なる大河に 想いを馳せる 東北の春

山形県といえば、最上川だ。松尾芭蕉の俳句にも「五月雨をあつめて早し最上川」とあるように、東北地方を代表する急流のひとつである。全長約229km。その本流が県外に出ることはなく、北海道を除くとひとつの都府県内だけで完結する最も長い川とされる。西吾妻山に生じ、米沢盆地、山形盆地、新庄盆地、庄内平野を通過して日本海に注ぐ川筋は、古くから山形の農業や舟運を支え、今もなお故郷の川、母なる大河として慕われている。

30数年前、日本の川をテーマに写真を撮りはじめたのもこの山形県だった。今回は原点回帰と思い立ち、当時の撮影地を訪れてみることにした。

まずは雄大な最上川に長らくの無沙汰を詫び、国道112号線を赤川沿いに進む。赤川は明治時代に最上川から別れた川だ。そのまましばらく行くと、赤川土手に桜並木が見えてくる。見事な満開で、透き通るような花弁が今にもこぼれそうだ。ここで撮影しようかとも思ったが、土手沿いを歩いているとすぐそばを流れる馬渡川まなりがわが目に入った。こちらも満開のソメイヨシノが水面を覆うように枝を伸ばしている。

地元のカメラマンもいて、聞けば花見の穴場スポットだと言う。久しぶりに訪れた地で、思わぬプレゼントももらったようで嬉しくなる。あの頃と変わらない銀塩のフィルムをセットし、新たな気持ちでレンズを向けた。

【写真右】桜並木で有名な赤川の堤へ行くと、なかなか撮影スポットが見つからない。歩きながら偶然出会ったのが、支流の馬渡川だ。そこには樹齢80年のソメイヨシノの古木が、320本も咲き乱れていた。暫し手を止め、北国の春に酔う。
【写真左上】寒河江川(さがえがわ)の一角には、山形名産のサクランボ畑が続く。遠くに見える山々はまだ冠雪しているが、里には春が訪れ、木々は一斉に芽吹いていた。
【写真左中】水仙の黄色い花が迎えてくれた最上川。周囲にはりんご畑が点在し、可愛らしい花を咲かせていた。
【写真左下】山形県長井市で撮影した置賜野川(おきたまのがわ)。山々は新緑に萌え、岸辺にはタニウズキがピンクの花を咲かせていた。